こんにちは、東京京橋カウンセリングオフィスです。

『こころとからだの健康』をテーマとして、日々の暮らしに役立つような情報を発信していきたいと思えます。第 52 回では、「臨床発達心理士」についてご紹介します。臨床心理士及び公認心理師以外にも“心理”のつく資格が存在している為、皆さまの知識の整理に役立てば幸いです。

今回紹介するのは「臨床発達心理士」です。一般社団法人 臨床発達心理士認定運営機構は臨床発達心理士を以下のように説明しています。

『臨床発達心理士とは、発達の臨床に携わる幅広い専門家に開かれた資格です。人の発達・成長・加齢に寄り添い、様々な困難を抱える人々を支援します。「発達の観点」から理解し、支援することができる専門的スキルを持つところが特徴です。』

「発達」という言葉から、発達障害・発達支援などが連想され、主に子どもを対象にしている資格である印象が抱かれやすいかもしれませんが、同法人は「子どもから大人まで、生涯にわたり支援します。」と説明しており、臨床心理士・公認心理師同様に支援の対象は幅広いようです。しかし実際はやはり子どもに関する現場に従事されていることが多い印象です。アセスメントも臨床発達心理士の業務の 1 つであり、発達に関する検査を行うこともあります。また、臨床心理士と同じく 5 年ごとの資格更新が必要です。受験資格は大学や大学院で、発達心理学隣接諸科学を専攻していることを基本的な要件としており、5つのタイプに分かれています。詳細を確認されたい方は一般社団法人 臨床発達心理士認定運営機構の HP をご参照ください(<https://www.jocdp.jp/license/application-type/>)。

では臨床心理士・公認心理師との違いはというと、主に支援対象及び支援方法にあると考えられます。臨床発達心理士は人々の発達をめぐる問題にアプローチしますが、臨床心理士・公認心理師は発達の分野を含む医療系の心の問題全般(うつ病、パニック障害、強迫神経症など)が支援の対象です。また、専門的な心理療法(ex.認知行動療法、来談者中心療法、遊戯療法 etc.)や人格検査(特に投影法によるもの)は臨床心理学的知識が必要とされる為、臨床心理士・公認心理師により実施されるのが一般的であると考えられます。

もちろん資格間に優劣はない為、お困りごとに合わせた資格保有者を選ぶことが大切であるといえます。例えば発達や成長に関するお困りごとであることが明白な場合は、発達の専門家である臨床発達心理士に相談してみるのも 1 つでしょう。しかし中には、ご自身のお困りごとの原因が分からなかったり、何に困っているのか/悩んでいるのかが整理できていなかったりする場合もあるかと思えます。そんな時は心の問題全般を対象としている臨床心理士・公認心理師に相談してみてもよいかもしれません。東京京橋カウンセリングオフィスには臨床心理士・公認心理師が常駐しております。いつでもお気軽にお問い合わせください。